

福島市教育委員会定例会会議録	
1 場 所	福島市役所 9階 903会議室
2 日 時	令和5年4月5日 午前9時00分
3 出席者	教育長 佐藤秀美 教育長職務代理者 渡邊慎太郎 委員 篠木雄司 委員 立花由里子
4 欠席した委員	委員 高谷理恵子
5 説明のため出席した職員	教育部長 三浦裕治 教育部次長兼教育総務課長 長南敏広 学校教育課長 穂積 浩 教育施設管理課長 小関 浩 教育研修課長 柏谷智也 生涯学習課長 遠藤 彰 中央学習センター館長 加藤享司 図書館長 安藤勝章 教育総務課課長補佐兼庶務係長 神野秀樹
6 議事内容及び経過	(1) 開 会 午前9時00分 (2) 日 程 本日1日間 (3) 署名人の決定 委員 渡邊慎太郎 委員 立花由里子 (4) 記録係 教育総務課庶務係主査 藤川哲生

1 議事	
議案第14号	福島市学習センター運営審議会委員の委嘱について
生涯学習課長	(教育委員会定例会提出事項 P3により説明)
篠木委員	委員は世代的に若い方が入っていないのか。 どのような年代の方がいるのか。
生涯学習課長	年齢が高い方が委員になっている傾向にある。
篠木委員	男女比はバランスが取れているように見えるが、これから若い方がうまく関わっていけることが理想。簡単にはいかないと思うが 念頭に入れておいてほしい。
立花委員	再任には回数の制限などがあるのか。
生涯学習課長	任期は2年となっているが、再任は2回までで6年が満了で慣例 としている。実情に応じて1期で退任される方もいる。
立花委員	任期が長い方ばかりではなく、適度に入れ替わっていくというこ とか。
生涯学習課長	適度に入れ替えを行っている。
教育長	異議ないため本議案を原案のとおり承認する。
2 教育長報告事項	
・令和5年3月市議会定例会議における質問及び答弁要旨について	
教育部長	(教育委員会定例会提出事項 別冊により説明)
篠木委員	義務教育学校の部分で小中学校の免許が必要となることが答弁で あったが、現状ではどの程度免許を持っている方がいるのか。
学校教育課長	義務教育学校で、小中学校どちらの免許も持っていることによっ

	<p>て、中学校の後期課程の教員が小学校の前期課程で指導する。それから、小学校の前期課程の教員が、後期課程で指導するという ことで、どちらの免許も所有しているものということが基本となっている。</p> <p>市内の教員の小・中学校それぞれの免許を持っている割合は把握していないが、すべての方が持っているということではない。今後、義務教育学校が令和7年4月に開校するが、教育委員会としても、そのような教員を配置できるように進めていかなくてはならないと考えている。</p>
篠木委員	<p>全員が小中学校の免許を持っていることがマストではなく、そういう形になるのが理想的ということか。</p>
学校教育課長	<p>それがなければ義務教育学校の良さを生かすという点で、うまく機能しないと思うため、その点は考えていきたい。</p>
教育長	<p>中学校の先生は、例えば英語の教員であれば、小学校の英語を教えることは問題ない。数学の教員は算数を教えるということもできる。小学校の教員が中学校を指導する場合には、専門の免許を持っていなければならないという形になる。</p>
篠木委員	<p>中学校の教員であれば、小学校でも教えられるということで理解した。</p>
立花委員	<p>義務教育学校の前期課程と後期課程というのは、前期6年、後期3年と考えてよいのか。</p>
学校教育課長	<p>そのとおりである。</p>
立花委員	<p>P T A活動についてコミュニティスクールを導入とあるが、どの</p>

	ようなものなのか。
学校教育課長	P T A 活動そのものについては、学校の判断となるため学校が完成してからとなる。
	事例として飯野地区では、コミュニティスクールという学校運営協議会において、地域に開かれた学校を運営するため、地域全体で学校経営に関わっている。飯野小学校と飯野中学校の2校で学校運営協議会を開いており、地域の方や保護者などに入っていた
	き、学校の校長が今年度の経営方針について説明をし、それに対するご意見などを伺いながら地域みなさんと学校を創っていく、子供たちを育てていくという目的のもとに取り入れる。
立花委員	P T A というと、保護者と教員かと思うが、そこに地域の方も入り一緒に子供たちに教育をさせるということで理解した。
教育長	教員が異動によりかわっていても、学校としての独自性や特色をしっかりとつなげていくことができる。
立花委員	答弁で、教育で選ばれるまちづくりについては、本市ならではの特色と強みを生かしとあるが、どのようなものが考えられるか。
教育長	例えば、全国学力学習状況調査は、毎年小学校6年生と中学校3年生を対象に行っているが、教科の問題だけではなく児童生徒の質問紙の調査も行っている。そこから見える本市の子どもたちは、素直で優しかったり、家庭学習の習慣が全国と比べてしっかりと身につけているということであったり、また、前回のQ-U調査でもあったが、学級に対する満足度が高かったりということがあげられる。そういったものが学校教育の大きな成果であり、地域

	<p>や家庭がご理解いただいて学校教育を支えてくれている表れであると思っている。喫緊ではコロナ禍にあって、オンラインなどデジタルを活用した学習も、他市町村を見ると福島市は大きく進んでいるのではないかと思う。</p>
	<p>また、近年力を入れている読書活動についても、県の読書量の調査を毎年行っているが、今まで下回っていたものが上回ってきており、全国学力調査の結果で見ても10分以上家で読書をしている割合が、小学生・中学生ともに全国を大きく上回っている。そういうものを我々は強みとしてしっかりと教育を行っていきたい。</p>
教育研修課長	<p>福島市自体がデジタル化に力を入れており、それに追従して教育のどのような場面で出せるかということで、他市に比べてタブレットを持ち帰ることができることについては進んでいると思う。</p> <p>緊急時や文房具のようにも使えるということで、これから10年後は明らかにデジタル化が進み、実際地元の大学では授業はすべてタブレットを活用するなどしている。そちらにも引けを取らないようにデジタル化を進めていきたいと考えているが、タブレットを活用すると予算がとてかかる。また、更新が早いなどの課題もあるため、どのように効果的に進めていくかが課題となっている。デジタル化は福島市の子育ての特徴としていけるように、今後も進めていきたい。</p>
学校教育課長	<p>新しい義務教育学校や公立夜間中学校についても、新しい学校を設置することによって、多様な方々の教育的なニーズに応えるこ</p>

	とで、本市の強みとなっていくのではないかと考えている。
篠木委員	個人的な考えになるかもしれないが、今アメリカにいるデザイン コンサルティング会社にいる方が、義務教育学校となる松陵中学 校で4月に全校生向けの講演と、その後1クラスでワークショッ プを行うことになった。同様に、午前中には福島第一中学校で講 演をしてもらうことになった。日本に来る機会があったというこ ともあるが、福島のことを想って来てくれる。実際震災後の学生 の際に来て接点があったため、福島の子も達のために無償で何 かをしたいという想いで講演をしていただける。このように福島 のことを想ってくれる人がいるということは強みであるし、福島 市にいる方もそうであるし、県外や海外にいる方が福島のことを 想ってくれて、子ども達のために無償で何かやりたいということ は大きな強みであると思う。インターネットなどで知識は簡単に 得られるが、最終的に子ども達に伝えたいことは、人を動かす・ 何かをしていくエネルギーを、どうやって子どもたちに伝えてい けばいいのかと思う。自分が無償で誰かにしてもらったことは、 その人に恩返しをすることはできないが、これからの先何かに返 していける部分があり、それが原動力になっていくと個人的には 思っている。そのような種をまいて、種が育って大人になった際 に、次の子ども世代に返していき大きなエネルギーになっていく と思う。
	卒業式などで子供たちが未来に向かって旅立っていく際に、しっ かりとした大人がそのようなことをきちんと提供できているのか、

	自分自身も教育委員としてできているのかといつも感じながら話を聞いている。色々なことをやって、種をまいていくことが福島の教育の強みになるといいと個人的に思っている。
教育長	議会への答弁は我々としての市民への説明責任、市民との約束だと思っているため、今回答弁させていただいたことをしっかりと進めていきたい。
・教育費 3 月補正予算の成立について	
教育部次長	(教育委員会定例会提出事項 P 1 2 により説明)
渡邊委員	保健体育費の保健給食費と、学校給食センター費という明細が列挙されている。学校給食センター費は何となく理解できるが、それとは別な保健給食費とは、先ほど説明のあった福島型に特化したものなのか、それ以外も含まれているのか。
教育施設管理課長	学校給食センター費は、4 つある給食センターの食材費など直接かかるものである。保健給食費については、備品や単独給食実施校に支給する補助金の福島型給食費などにかかるものである。
渡邊委員	教育施設管理課の関係で、長期的なイメージで理解したいと思っている。長寿命化は、予算で見ると建築関係は大きくなってくるが、将来的にはどのような収支を想定しているのか。仮に、長寿命化が一段階した後、ある程度サイクルを決めて実施していく際の想定予算というのは、今よりも延べる分下がるのか、それとも延べて回していく分同じようにかかっていくのか。
教育施設管理課長	施設については、当初 6 0 年ほどもたせて全面改修する予定で

	<p>あったが、全国的に一時期に校舎を造っており、一斉に建て替え時期を迎え予算的が必要となるため、校舎を80年ほどもたせるような状況になってきている。間の40年程度を基本として長寿命化改修を行うが、工法はスケルトン工法で行い、枠や土台だけを残して教室の造りを変えるのが長寿命化改修になる。それ以上築年数が経過している場合、土台自体が古いため更新改修となるが、長寿命化をすると20年以上使わなければならない。</p> <p>また、大規模改修まで持たせるためのリフレッシュ事業が今回始まり、屋上の防水シートの張替えや、壁を塗り替えるなどの対応を行っている。将来的にこれからどの程度の予算が必要となるかは、国の状況も注視しながら改修を進めていく。</p>
渡邊委員	<p>質問の仕方を変えると、今のこの予算は比較的長寿命化ということで、あるべき姿よりも予算を特に要する状態なのか、特段今が高い訳ではなく、これからも同様にかかるのか。</p>
教育施設管理課長	<p>計画は立てているが、予算が確保できないため、ずれが生じている。長寿命化を進めた場合、20年間は使用しなければならない。その間どの程度の学校を対応するのか予想ができないが、着実に実施しなければならない。耐震化は95%までが完了している状況であるが、実施していない学校を進めていかなければ、長寿命化の計画に遅れが生じてしまうため、今後も同程度の予算が必要となるかは明確にお答えするのは難しい。</p>

・福島市女性教育指導員の委嘱について
生涯学習課長 (教育委員会定例会提出事項 P 1 5 により説明)
3 その他
・今後の日程について
教育総務課長 (教育委員会定例会提出事項 P 1 6 により説明)
① 次回の定例会の開催について
令和5年4月26日(水)午前9時00分から市役所9階903会議室
終了後に協議会を開催。
② 今後の主な行事予定について
教育長・教育委員の出席が予定されている事業を周知。
③ 今後の定例会の開催について
6月定例会は5月29日(月)午前9時00分から市役所9階903会議室で
開催予定
以上終了 午前10時40分
記 録 藤川 哲生
委 員
委 員